
Jolly intruder

KYOS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Jolly intruder

【Nコード】

N7153Y

【作者名】

KYOS

【あらすじ】

「The Defense Network」第2弾！

春の一大イベント、ゴールデンウィーク。

とくにやることもなく、学校でのんびり暇をつぶしをしていた、結弦と詩織。

そんな二人に先生が、サーバーのメンテナンスの手伝いを頼む。

最初はただのメンテナンスだったのに、学園のネットワークに外部から攻撃を受けていることが発覚して事態は一変。

静かな連休があわただしい攻防戦に発展する！

code 001.. (前書き)

初めての方、初めまして！

前作から読んでくださってる方、お久しぶりです！

作者のKYOSです。

今回はサイバー攻撃、ハッキングなどをテーマにしています。

ない知識を総動員して分かりやすく書いていくので、どうかお楽しみください。

／／———
———結弦———
———

「えっ？詩織今年は家に帰らないの？」

「うん。今年のゴールデンウィークはうちの道場の門下生集めて合宿に行くんだって。両親もついて行くらしいし、家帰っても誰もいないしね」

「ふん」

ゴールデンウィーク直前の金曜日の夜。

数多くの生徒が行きかう食堂で、いつものメンバーと夕食をとっていた。

話題はもっぱらゴールデンウィークの予定の話。

竜崎、北園はそれぞれ九州と東京の家に、神池は部活の合宿で大阪のほうに行くらしい。

「仲村はその合宿に行かないでいいのか？」

「行っちゃって門下生と違ってやることないもん。それに練習の邪魔しちゃうでしょ？」

「そんなものなのか？」

「そんなもんだよ？」

詩織もいつもなら家に帰るけど、今の話を聞く限りじゃ今年は帰らないらしい。

俺はもとからおじさんの家に帰るつもりはないし、となるとやることがないんだよな、毎年。

そんじゃ今年は、詩織誘って日帰りでどこか遊びに行ってみるか。

「……づる。結弦」

「んっ？」

「何ぼくとしてんだ？」

おっと。

詩織とどこ行こうか考えていたら、箸が止まっていたらしい。

左隣に座っている神池が、俺を覗き込んできた。

……さりげなく、俺から死角になる場所で俺のどんかつを掴もうとしながら。

シュカツ！

何回かミスって、やっとなみあげた神池の箸のどんかつを、素早く奪還。

「大丈夫。ちよつと考え事してたんだ」

「そ、そうか……。ならよかった……」

不敵な笑みを浮かべながら答えてやると、若干顔を引きつらせながら自分の席へと戻っていった。

くそっ。「何考えてたんだ？」「みたいなことを聞いてきたら成敗するチャンスだったんだが……」

まあ、いい。

代わりに竜崎が反撃してくれた。

「……くそ。ばれないと思ったのに……って俺のステーキが半分になってる!？」

席に戻って自分の皿を見た神池が叫ぶ。

それにしても、あの短時間でよくもあんなに食べれたな、竜崎の奴。

「神池。バカやってないでさっさと食べなさいよ。もうみんな食べ終わったわよ」

しばらく嘔然としてた神池に、北園がテーブルに両肘をついて、暇そうに言う。

その声にハッとして周りを見渡して、慌てて箸を動かし始めた。ものすごいハイペースだな。そんなに急いで食ってるとのど詰まるぞ。

「もごもご……んっ!? んっっ!!」

やっぱり詰ませた。

とりあえず神池のコップの中にラー油をたっぷりと入れておこう。

おもしろそうだから。

そんな俺を、詩織がジト目で見てるような気がするが、気のせいだと信じとこう。

「んっっ!!」

ちょうどラー油をもとの位置に戻して証拠隠滅が終わった瞬間に、そのコップを神池が一気におろす。

一気飲みなんて自殺行為でしょ。

「うぎゃ……!!」

8時を過ぎて、生徒もまばらな食堂で、神池の叫び声が轟いた。

code 002..

「それじゃあ連休明けにね」

「お土産よろしくな」

「結弦、おやすみ」

「ああ、おやすみ」

神池が火を噴きながらもなんとか食べ終えたところで、今日は解散することになった。

北園にお土産を頼みながら、女子寮に帰る二人を手を振りながら見送る。

横には同じように手を振る竜崎と、甘すぎると評判の桃ジュースを一息に飲む神池がいる。

「よくそんな甘すぎるものを一気飲みできるな」

「rareのふえいふあ、rareの」

まだ舌が回らないみたいだ。

まあ、普通のラー油じゃなくって、この学園特性の殺人的な辛さを誇る特性ラー油を入れたのはやりすぎだったと思う。後悔はしていないがな。

「それじゃ、俺らも帰るか」

「そうだな、俺も明日朝早いし」

竜崎とそんなことを話しながら、俺たちも男子寮へと歩く。

「ちょっと待てコラ」！

とかなんとか叫びながら、神池も後ろを走ってくる。

「おっ。やっと声が戻ったのか？」

「まったく。結弦のおかげでひどい目にあっただぜ」

「俺は何もしてないぞ。お前のコップに殺人ラー油を混ぜただけだ」

「それだそれっ！それのおかげで死にかけてたんだよっ！」

「あゝ。悪い、さすがに殺人ラー油はやばかったな」

「分かればいいけどよ」

「今度はタバスコを用意しとく」

「一緒だっ！！！」

まったく、うるさいな。

仕方ないから次からは普通のラー油にしといてやろう。

そんなバカ話をしていると、いつの間にか男子寮の入り口に。

「それじゃ、また連休明けにな」

「おう」

「休み明けは覚えてろよ！」

なんか悪役みたいな捨て台詞を吐いてる人が一人いるんですが。

まあ、いいか。

部屋の間隔が違う俺は、寮に入っすぐ二人と別れた。

「さてと、ニュースでも眺めるか」

一人でそんなことを呟きながら部屋に入って、パソコンの電源を入れる。

数秒立って真っ黒な画面に白い明かりが灯る。

「何か面白そうな記事はないかなって」

『あのプログラム』ができてから、皆ちよくちよくプログラムを動かしてるみたいだけど、俺も暇つぶしに作ってみたのがこれだ。

名づけるなら『ニュース収集プログラム』。

yahooニュースやMSNニュースみたいなサイトを指定しておいて、興味のある単語を登録しておく。

俺の場合だと『Windows』、『Linux』、『セキュリティ』、その他多数。

それでプログラムを走らせておく。

そうすると、定期的にそのサイトを見て回って、登録した単語が見つかったらアドレスをデータベースに追加する。

そうやって集めたニュース記事を、俺は今眺めてるわけだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7153y/>

Jolly intruder

2011年11月23日21時51分発行